

## 北海道札幌藻岩高等学校の取組

### 1 研究のねらい

平成 29 年度 3 学年が実施した「国際理解に関する教育」のねらいを、キャリア教育を融合した国際理解教育とした。海外駐在員の経験者や市内の大学の外国人教員から、海外での業務を通じて得られたことや海外の人が日本で仕事をすることで得られたことなどの話題を提供していただいた。生徒自身の考えを、講師の提供する話題に投影し、疑似体験を仮想することで、「異文化を受け入れることの意味」「ライフイベントの転機」「キャリア形成の仕方」を考えることを目的とした授業を実施した。

### 2 取組内容

課題：国際理解教育がキャリア教育など教育の今日的な課題と融合し、生徒自身の課題設定と解決の考察を促すためにはどのような授業が有効なのだろうか。

#### (1) 異文化理解を深める授業（その 1）

##### ① 実施概要（平成 29 年 7 月 14 日実施）

マレーシアへの海外駐在経験があり、高校生のときにオーストラリアへの留学経験をもつ、株式会社 JTB 北海道札幌法人事業部の大熊慧子氏に講演いただいた。海外文化に目を向ける機会の捉え方を、「海外駐在から得られた商習慣の違い」「生活文化の違いやカルチャーショック」や「海外駐在のきっかけ」「高校・大学時代での経験」などから、キャリアモデルとして進路選択の視点を広げることをねらいに授業を展開した。

##### ② 生徒の意識の変容 ～ 生徒の感想から 《【】：意識の変容・「」：生徒の感想》

###### 【異文化を受容する姿勢】

「異文化を理解し受け入れることは、同時に自分の世界も広がる。」「異文化に触れる際にも、それぞれの文化を平等な価値観で見ることが大切。」

###### 【海外への興味】

「海外には偏見があったけど行ってみたら変わるのだろうか。海外に一度行けば一生ものの学びがあると思う」「海外に行くことで考え方とかも変えることができそう。」

###### 【コミュニケーションの熱意】

「言葉が分からなくてもコミュニケーションを取ろうとすることから始まる。」「自分が考えていることや希望は声に出すことは大切だ。」「言語が違うことで困ることがあっても、楽しむことができると思った。」

###### 【講師からの触発】

「何にでも興味をもって挑戦することが大切」「何かをきっかけにがらりと変わることもある。自分にとってどの選択が良いか悪いかは分からないが、とにかく進むことが大切」「一つの考えに縛られず様々な視点から考え視野を広げたい。」

講師の言葉から、海外での留学や仕事の経験、講師のキャリアを生徒自身が自己投影し、将来を仮想するような素直な感想が表現されている。

## (2) 異文化理解を深める授業（その2）

### ① 実施概要（平成29年9月22日実施）

ルーマニア出身で数学が専門の東海大学生物学部生物学科教授のサバウ・バシレ・ソリン氏に講演いただいた。「価値観の違い」「（講師の）日本への留学動機」「数学を研究するきっかけ」「講師の今の研究の取組」などの話題から「講師の経験から海外文化と接触にする機会の捉え方を得ること」を通して、キャリア形成を考察することをねらいに授業を展開した。



### ② 生徒の意識の変容 ～ 生徒の感想から 《 【 】：意識の変容・「」：生徒の感想 》

#### 【他国を知る欲求・文化的背景の比較】

「ルーマニアは名前しか知らなかった。」「ヨーロッパ方面の文化や歴史を調べたい。」「少しでも自分の国以外のことを知れて嬉しかった。」「ドラキュラが起こした奇跡を知りたい。」「神聖ローマの時代の話が素晴らしい。」

#### 【講師の研究への関心・学習への視点の転換】

「数学は国と国が共通しているから人の“輪”を広げるツールになる。」「数学と生物など違う分野と関連づけることも大切。」「黄金比は身近なところにあり美しさの象徴である。」「元々“美しい”という感情に疑問をもっていたが少し分かった気がして嬉しかった。」「数学に面白さを感じられるようになりたい。」

#### 【「空手」という武道の捉え方の違い】

「空手を通じて自分を知るという考え。」「外国と日本では捉え方が違う。」「日本人だけど武道について何も知らなかった。」

#### 【自己理解の重要性】

「自分を理解することの大切さ。」「アイデンティティを保ちつつ他から取り入れられるようになりたい。」

未知の国の知識の獲得、新たな知への欲求、生徒の現状の理解など、講師の経験を介しその経験に投影させた生徒の感想が述べられた。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

「海外への興味や他国を知る欲求」「異文化を受容する姿勢」「文化的背景の比較」などで意欲的な学びの姿勢が見られる。学年進行での取組から、異文化を理解することへの経年的な深化があった。また、「自己理解の重要性」にも生徒の意識変容が見られ、うキャリア教育と融合するとした学習のねらいには成果があった。

### (2) 課題

今後の取組の充実と継続性、評価の構築が検討課題である。学習内容の教科横断型への改善、授業のねらいと対応する評価観点の検討が必要である。また、国際理解教育の意義を生徒にもたせたい資質にどのように結び付けていくかの検討も課題である。